

地震で知った本物の価値

1999年8月17日未明、「トロイア戦争」で名高い《トロイア遺跡》近くのホテルのベッドが突然大きく揺れた。しばらく寝ぼけ眼のまま茫然としていたが、大音響とともに、もうひと揺れやってきた。「こりゃまずい。地震だな」と初めてことの重大さを悟った。二度目の揺れで咄嗟に逃げ出そうと思った。まさにその瞬間大きな揺れはぴたりと止まった。

たまたま二十世紀最悪のトルコ大地震に出くわしてしまった。近代的な高層ビルが無残に倒壊している傍らで、歴史と伝統を誇るモスLEM教会のドームや、中世の地下宮殿はびくともしなかった。観光中に突然しのつくような雨が降り出した。おや？とわが眼を疑った。何と公園内に立ち並ぶ被災者のテントから、色鮮やかな絨毯が惜しげもなくはみ出していたのだ。激しい雨に打たれ、伝統のトルコ絨毯は無残にも雨と泥に塗れていた。確かこのトルコでは、嫁入り道具として母親が織ってくれた手作りの絨毯を、嫁ぎ先でも一生大切に扱うと聞いていたが・・・。

だが、この驟雨の中でシート代わりの、この雑な使い方はどうしたことだろう？私の疑問に人懐っこいトルコの人たちが微笑みながら話してくれた。良質な絨毯ほど風雨、気温の変化に耐えられる。汚れは洗えば落ちるし、乾かせば元へ戻る。絨毯は装飾用ではなく、実用性こそ大切であると教えてくれた。